

▼あなたのことが大好きだから監禁するね♡

2021 カオティックちくわ

「はあい……あ♡ やっと来てくれたんだ～♡
待ってて、今開けるから」

(ユーザーに抱き着く)

「ぎゅう～～……ぎゅうう～～～……」

「遅かったから心配したんだよ。
LIME100通以上送ったのに未読だったし……」

(LIME=LINEの事)

「事故にでもあったのかな、とか、
誘拐されちゃったのかな、とか……」

「いっぱい嫌な想像が頭の中グルグルしてたの……」

「……ごめんね、好きすぎて、
いっぱい不安になっちゃうの、だから……」

「今度から遅くなる時は絶対に連絡してね。
じゃないと……ね？」

「うん。ありがと♡ それじゃあ、入ってえ」

「喉乾いたでしょ～。今お茶入れてあげるからね～」

「はい、どうぞ。……あれ、どうしたの？」

「なんでもなくないよ。絶対何かあったでしょ？
いつでもどんな時もきみのこと見てるもん。それくらいわかるよ」

「ほら、ちゃんと話して。何があったの？」

「……え？ 学校で、嫌がらせされた？
……どういうこと？」

「同じクラスの子に……？」

「そつか……また……」

「ね、もう一回ぎゅーってするね」

(ユーザーを抱きしめる)

「……辛かったね。嫌だったね。怖かったね。
でも、もう大丈夫だよ」

「これからは、外の辛い事なんて全部忘れて……
私に愛される事だけ考えて？ ね？」

「……あ、そうだ」

「私、いいこと思いついちゃった」

「これから、君が一番幸せになれる方法……」

「私に監禁されるの」

「つまり今からきみの世界は、この家の中だけ……」

「私、独り暮らしだからさ。
誰にも邪魔されずに、ずっと、ずっと一緒にいられるね♡」

「もう誰も、きみを傷つける人はいないの」

「心配しないで。私が面倒見てあげるから。
ご飯も、お風呂も、全部全部全部」

「……もちろん、エッチな事も、ね♡」

「ほら……おっぱいも……お、おまんこも……
全部、きみのものなんだよ？」

「これからはきみの精液……わたしのなかに
出してほしいな……♡」

「あ……ふふ♪ ちょっとおつきくなってる」

「我慢しなくていいんだよ……
ほおら、ベッドいこ……♡」

「今日から一緒にこのベッドで寝るんだよ。
それから……エッチなこともいっぱいするの、ふふふつ♡」

「ぎゅううつ……ふふ、あたたかい……。
はあう……心臓がドキドキしてるので、わかるよ♡」

「えへへ……私もドキドキしてる？
大好きなきみとエッチなことするんだもん。当然だよお……えへへ♡」

「ねーえ、キスしていい……？
私も、もう……我慢できないかも……♡」

「んちゅつ、ちゅつ……はふつ……んんつ……むあつ……唇やわらかあい♡」

「ちゅつ、ちゅつ……舌も、入れちゃうからね……♡

んれるつ……ちゅぶつ、ちゅれつ、れろつ……」

「んむあつ……美味しい……♡
んぢゅつ、んむうつ、んつ……ちゅつ、ちゅぱつ……」

「はふつ……ずっと、この舌……味わっていたいよお……
ちゅうううつ、ちゅつ、んつ……ちゅぶつ、ちゅふうつ……んつ」

「ああつ……そだあ……これからは……んぢゅつ……
好きな時にキスだって、できるんだったね……♡」

「んむつ……ちゅうつ、ちゅうつ……んぢゅうつ……
んれろつ……んはあつ……とろけちゃうつ……んつ、んぢゅぱあつ……」

「んあはあ……はあ……キスだけで、気持ちよくなつちやつた……♡
ふふふ、でもまだまだだよ……♡」

「これからもつともつと気持ちよくしてあげる……♡
ん~……次は何しようかなあ……？」

「そだ……♡ お耳をペろペろしよっか♡
お耳も、立派な性感帯だもんね……ふふつ……いっぱい感じてねえ……♡」

「耳たぶ、あむつ……はむうつ……んむうつ……
あむつ……甘噛みだから、ぞわぞわするでしょお……♡」

「あむつ……んつ……ふにふにで可愛い耳たぶ……食べちゃいたいくらい……♡」

「でも、そんなことしたらきみが痛い思いしちゃうから……
我慢するね……♡ ん、ちゅつ……♡」

「お耳の穴も……ペろつ、ちゅうつ……
ちゅぱつ……んつ……んああつ、れろつ……れるるつ……」

「んはあつ……ふふふつ……身体、びくびくしてるう……
お耳ペろペろで、腰碎けになつちやつてるんだあ……かわいい♡」

「ちゅつ……ちゅふつ……んれるつ……
れろれろつ……ちゅふあつ……ちゅれろつ……れるるつ……」

「んあああ……♡ なんか硬いのが当たってるよ♡
ほらあ……今私がなでなでしてるとこ……なあに、これ~？ ふふ♡」

「んつ……ズボン越しでも、熱いのがわかる……。
それに、ガチガチで、かたあい……はあ……はああ……♡」

「ふふふ……キスと耳舐めだけで、興奮して勃起しちやつたんだね……♡
私の中に入りたいよ、愛し合いたいよおつて、叫んでるみたい……♡」

「んつ……はあつ……私も、我慢できないよお……。
もう、パンツがね、濡れちやつてるの……」

「ほら……指で触つて確かめてみて……。
んんあつ……くちゅくちゅって音、聞こえる、でしょつ……♡」

「はあ……ああ……はやく、一つになろお……♡
外の嫌なことぜんぶ忘れて……頭の中を、私でいっぱいにして……♡」

「ズボン、脱がせてあげるね……よいしょつ……」

「ふわああつ……パンツ、我慢汁で濡れちゃってる……」

「すんすん……はあ……えっちなにおい、する……。
苦しそうだから、パンツもはやく脱がせてあげるねつ……んつ、しょつ……」

「ああつ……おちんちん……パンパンに腫れて反りかえってる……♡」

「もう少し我慢してね……今、私のおまんこで楽にさせてあげるからつ……
座ったまんまで、抱っこしあうエッチしようね……♡」

「ふえ……？ コンドーム、着けたいの？ どうして？」
……赤ちゃん出来ても、別に私は良いよ？」

「きみとの赤ちゃん、欲しいもん……♡
それに、着けない方がお互いを感じられると思うなあ……♡」

「え……まだ早い……？ んむうう……。
わかったよう。今回は着けてあげる……」

「それに、お楽しみは後にした方がいいかもね……
そうだそうだ、そうだよ、ふふ♡」

「じゃあ……ゴム、着けてあげるからね」

「んつ……空気を抜いて、かぶせて……
根元まで……えいつ……えいつ……」

「はい、おちんちんのお着替え完了♡
うつすらピンク色で、可愛いのに……いやらしい形……んんつ」

「ふふつ、いよいよエッチだね……♡ パンツは脱ぐけど、
制服は着たまんまでいいかな。その方がきみは興奮してくれるよね♡」

(跨がる)

「んつ……じゃあ、入れちゃうよお……。
んつ……んうつ……駄目、きみは手伝っちゃ……」

「私が、入れるのも、動くのも、ぜんぶしてあげるんだから……
んつ、ふつ……ああつ……入って、くるつ……くうつ、うううんつ……」

「んあああつ……太くて、かたあい……あ、あ、ああつ……
はううつ……お腹の中……いっぱいに、なっていくううつ……」

「はあ……ああつ……これからは……あんつ
こうやって……んつ、きみのことを独り占めできるんだあ……」

「あんつ……きみは、はふつ……
もうなんにも心配しなくて、いいんだよおつ……」

「24時間……365日……んつ、んつ……愛してあげるからつ……
あんつ、ふ、ああつ……あつ、あ、あつ……」

「はあつ……んつ……ううんんつ……！
膣内(なか)で、ぐんって、おっきくなつたあ……」

「あつ……気持ちいいの♡ あんつ……
私のおまんこはつ……きみ専用なんだからねつ……」

「はふつ……ああんつ……一生こうやってつ……
二人つきりでつ……んつ、愛し合えるなんて、しあわせえつ……」

「はあんつ……きみももう、傷つかなくていいしつ……
なんにも心配する必要なんて、ないんだよ、ふあつ、ああんつ……」

「あんつ……んつ……この世界には……
私ときみだけつ……ああつ、ふつ、ああつ……」

「はあああんつ……大好きだよおつ……
頭の先から、つまさきまでえつ……んつ、ふあつ……」

「全部全部、愛してるつ…ああつ……
ああんつ、ふ、うつ……んんつ、ああつ……」

「あんつ……いいよつ、気持ちよくなつてつ……
このままつ……思いつきり、射精していいんだよつ……」

「あんつ、あ、ふ、ああつ……んんつ……
きみがイク時は、私も一緒にイつてあげるからねつ……」

「んつ、膣がきゅうきゅうつて、あんつ……
おちんちん絞つてあげるのつ……んつ、んつ」

「あつ……イクつ……イッちやううつ……！
んつ、んううつ……私も、もう……！ ああんつ！」

「一緒につ……んつ、うううつ、あんつ、あ、ああつ！
はあつ、あふつ……んつ、んつ、んつ！」

「イクうううううううううううううううつ……！」

「ふつ……ううつ……くつ、んんつ……ああつ……
膣内でつ……ドクンドクン、波打つてううつ……！」

「んんつ……んんつ、ああつ……精液つ……
いっぱい出てるんだねえつ……ん、ああつ……」

「はあつ……はあつ……はふつ……んああつ……。
ああ……気持ちよかったです……？ うふふつ……よかったですあ……」

「んんつ……まだ、繋がってたいけど……
どれくらい出たか……確認したいから、抜いちゃうね……」

「あ……射精したから……
かたあいおちんちんじゃなくなってる……ふふ」

「こぼれないように取らなくちゃね……んつ、んつ……
よおし……取れた……♡」

「ねえ、見て……♡ こおんなにたくさん出てるよ……♡
きみの精液で、ゴムのさきっぽ、たぷんたぷんになってる……♡」

「これ……ちゃんと縛って、大切に保存しておかなくちゃ♡」

「捨てるなんて、もったいないよ。
私ときみとの、愛の思い出の一つなんだもん。ね♡」

「ふふふ……二人っきりの生活の始まりだよ。
めんどくさいことは何にも考えなくていいよ♡」

(ちゅつ、は頬にキス)

「死ぬまで、守ってあげるね♡
ちゅつ……ふふつ……大好きだよ……♡」

//トラック2

「お待たせ～♡ ご飯できたよ～♡」

「今日のメニューは、きみの大好きなオムライスです♡
見て見て～。ケチャップでハートいっぱい描いちやつた♡」

「私の分は、まだ作ってないよ？
きみの胃袋を満たして上げることが最優先だもん♡」

「はい、座って～。
私は隣に座っちゃおうっと♡ よいしょっ……」

「ん？ 学校行きながら自炊なんて、余裕だよ。
独り暮らししてる時もだいたい家で作って食べてたし」

「それにね、私が作った料理をきみに食べてもらえるなんて……
嬉しくって仕方ないんだもん♡」

「休み時間中も、ずっとレシピ考えてたんだあ……。
うふふつ……すっごく幸せな時間だった～♡」

「……ん？ ああ、きみの搜索はまだ続いてるみたいだね。
まさか私の家で監禁されてるなんて誰も思わないだろうけど♡」

「もしかして、お家の事が心配？
それとも将来の不安とかあるの？」

「大丈夫だよ♡ きみはただこの家にいればいいの。
お金は私が稼ぐから♡」

「きみはしっかり者で優しいなあ。
そういうところも大好き♡」

「って……早く食べなくちゃ！
せっかくのあつあつオムライスが冷めちゃう！」

「ああん、きみはスプーンなんて持たなくていいの。
だって……私が口移しで食べさせてあげるんだもん♡」

「はい、あーんして待機してくださ~い♡ ふふつ、かわいい♡
小鳥さんが親鳥からご飯もらうの待ってるみたい」

SE:スプーンのカチャ音

「ふーつふーつ……食べやすいように、
私が噛み噛みしてから口移しするね。あむつ……もぐつ、もぐつ……」

(左に座ったまま正面口移し。口移しの最中は1へ)

「んあむつ……ちゅぼつ……ちゅむつ……んつ……んうつ……。
んれれつ……んあつ……」

「はあい、ごっくん♡ お味はいかがですか？
ふふつ……良かった。きみ好みの味付けにしたんだよ♡」

「それに私の唾液も、良い調味料になってるのかもね～……♡
ふふふつ、まだまだあるからいっぱい食べてね」

「あむつ……んつ、もぐ、もぐつ……」

「ん……んちゅつ……んむあつ……んう……んつ……
んれろつ……れるうつ……ちやぴつ……じゅれろつ……んふああつ……」

「はい、ごっくん……ふふつ♡ 赤ちゃんみたい♡」

「……あれえ？ ねえねえ、ズボン、膨らんじゃってるよ。
口移しディープキスで、興奮しちゃったの？」

「まったくもう……しょうがないなあ♡」

「じゃあちよつと、食欲じゃなくて性欲を優先させよっか♡
白いのびゅーびゅーしてスッキリしてからご飯再開ね♡」

「ズボンを脱がせてえ……パンツも、脱ぎ脱ぎ……」

「えへへっ♡ おっきいの、出て来たね……
口移しで興奮しちゃったエッチなおちんちん♡」

「う~ん……どうやって気持ちよくしてあげようかな～……」

「よおし♡ まず……優しくさすさしてみよっか♡
触れるか触れないかくらいそっと握って……上下にしこ……しこ……♡」

「あっ……おちんちん、またおっきくなつたよお……
もっと刺激がほしいよーって言ってるんだ……♡」

「でも、焦らしたまんまのしこしこだからね。
んん~？ だって……溜めてから出した方が気持ちいいもん絶対♡」

「亀さんの部分も……なで……なで……。
ここは棒の部分とは違って、勃起してもふにふにして弾力があるんだね」

「親指と人差し指、わっかみたいにして……
亀さんと棒の境目くらいを……しゅつ……しゅうつ……♡」

「あはつ♡ これ気持ちいいんだね～♡
腰、浮いちゃってるよお……♡ しゅつ……しゅつ……♡」

「ああっ……我慢汁溢れてきたあ……
ほらあ……お汁に触って離すと……糸引くよお……」

「はあ……匂いも濃くなってきたね……♡
また棒をそと握って……上下に……しゅつ……しゅつ……」

「んん～腰がもぞもぞしちゃってるう……。
その切なそうな顔も、大好き……」

「私、きみのどんな表情も……愛しいの。
笑った顔も、怒った顔も……でも……」

「ムラムラして、切なそうなのが……特に大好き……。
はあう……そんな表情見られるの、今世界で私だけなんだね♡」

「もっと見たあい……見せてほしい……♡ だから、焦らして焦らして
焦らしまくって……気持ちよくさせちゃう……」

「しこ……しこ……しこ……しこ……」

「おちんちん、どんどん熱くなってるよ……♡
手が火傷しちゃいそお……♡」

「はやくイキたいよね……思いっきり、射精したいよね……。
ふふつ、よだれ出ちゃいそなくらい、とろんって口開けちゃって……」

「ちょっとだけ、強めに握ってしごいてあげるね……。
ほら……しこつ……しこつ……ごしつ……ごしつ……」

「ああっ……のけ反っちゃうくらい気持ちいいんだあつ……♡
おちんちんも手の中でびくんって震えたよ……」

「じゃあ、強さと一緒に速度もあげていこつか♡
ごし、ごし、シュツ、シュツ、シュツ……！」

「はあはあしてる……ああん、もう我慢できない?
精液思いっきり飛ばしたいの？」

「私も、きみの精液がびゅうってするの、見たいっ……♡
だからもうイカせてあげるねつ♡」

「ぎゅうって握って、ほらっ、しこしこすごい強く激しくしてるよっ
見てつ……私のいやらしい手の動き、見てつ……♡」

「しゅつしゅつしゅつしゅつしこしこしこつ……

あ、あ、あつ……おちんちん、ぐんて硬くつ……もう出そうなんだねつ♡」

「いいよつ、イッちゃえつ……！
思いっきり、えっちに情けなくイッちゃえつ……♡」

「お耳舐め舐めされながら、びゅーってしゃえつつ♡
んちゅつ……れろろつ、れるつ、れるるつ……ほら、ほらほらあつ♡」

「ふ、あああああつ……精液、噴き出してきたああつ……♡
わ、わわあつ……♡」

「ああつ……まだ……びゅっぴゅって……出てる……♡
はふう……きみの射精……すごおい……いやらしくて……はあ……♡」

「はふ……もう、おしまいかな……？ 絞り出してみるね……んつ、んつ……
あはつ♡ ちょっとじゅうんって溢れてきたあ♡」

「あ……精液たくさん飛んじやったから、オムライスにかかっちゃってる……」

「あん、心配しなくて大丈夫、このオムライスは私が食べるから♡
きみの精液がトッピングされたオムライスなんて、絶対美味しいもん♡」

「……っていうか実はね、このことを予測してたから
自分の分を作らなかつたんだよお♡ えへへ♡」

「さてと、新しくオムライス作つて上げるね……って、あれ？
今出したばっかりなのに……大きいままだよお？」

「そつかそつか。まだ性欲が収まらないんだあ……♡
じゃあ……」

(テーブルの下に入りエラを始める準備。ここから椅子に座り、マイクの下から)

「いいよ。イライラおちんちんをスッキリさせてあげるね……よいしょつ……♡」

「ふふつ……きみのあつあつビンビンおちんちん……♡
これ以上ないごちそうだよ♡」

「いただきまあ～す♡
んあむつ……んつ……じゅぼつ……ぢゅぶぶつ……じゅれろつ」

「んつ、んぶつ……んじゅうつ……んあつ……
はあ……さつき出たばっかりの精液……んれるるつ……おいひい♡」

「じゅぼつ、ぢゅばあつ、んつ……ふつ、んじゅつ、じゅつ、ぢゅつ……
んんんつ、ぢゅぼつ、ぢゅつ、じゅううつ、じゅるうつ」

「んむあつ……はあ……おくちのなかれ……
おおきくつ……んつ、じゅつ……んつ、じゅぼつ、じゅぼつ……」

「んぶあつ……はあ……いきなり激しくしそぎちゃつたかな？
でも、イッたばっかりだからすぐには射精しないよね？」

「ふふつ……いっぱい責めて、刺激を与えてあげるね……♡
口の感触、楽しんでくれたらうれしいな♡」

「んあっ、男の子は、裏筋の部分が弱いんだよね？
んれるつ……れろろろつ、れるつ、ちゅむつ、ちゅれつ」

「次は亀さんをぱくってして、舌でちろちろもおつ……
あむつ、んちゅつ、れるつ、れろつ、えるうつ、れるるるつ」

「んふふふつ、気持ちよさそうな声出てるねつ……れろつ
ネットでいっぱい調べた甲斐があったよ……男の子が喜ぶフェラの仕方♡」

「んれりゅつ……きみが飽きちゃわないように……んちゅつ
これからもずっと、色々なテクニックを勉強するからねつ……♡」

「今度は、カリの部分、責めちゃおつと♡
んれれう……ちゅぴつ……ちゅぱつ……れろろろ……」

「れろつ……んつ……ちゅうつ……んはあつ……
これも気持ちいいみたいだね……ふふ、わかりやすくて嬉しいよ♡」

「ちろつ……ちゅるつ……ちゅれれつ……んつ……
んぢゅうつ……ちゅつ……れろろろつ……れろろろろつ……」

「んふふううつ……可愛い声、出ちゃってるよお？
んれろつ……れるるつ……ちろろつ……れちゅうつ……♡」

「はふつ……お次は、タマタマを口に含んじゃおつと……
んむつ……んじゅぼつ……じゅぱつ……♡」

「んぶあつ……れるるうつ……この中に……
赤ちゃんの種が、つまってるんらね……えるうつ……じゅぼおつ……」

「このタマタマの中から……一滴残らず、
精液搾り取って上げる……♡」

「ちろろつ……れろろつ……れるうう……ぢゅつ……
じゅぶぶつ……じゅぼおつ……♡」

「むはうつ……んん～？ もう射精したいのお？
そつか……♡ うん、わかった♡」

「それじゃあ最後は……思いっきりびゅうびゅうできるように、
おちんちんずっぽり咥えて、じゅぼじゅぼしてあげるね……♡」

「んあぶつ、ぢゅつ、じゅぶつ、ふつ、んんつ、じゅるつ！
じゅぶぶつ、んじゅつ、びゅぼつ、んじゅるるるつ♡」

「んんむうつ……んつ、んつ、んぶつ、じゅぼつ……ぢゅつ、ぢゅぶぶつ♡」

「んじゅつ、じゅるれつ、れろろつ、じゅうつ……

ちゅうつ、ちゅぶつ、じゅぼつ、じゅつ、ちゅれろつ」

「んんむつ……いひそうつ？
ちゅるううつ、らしてつ……んつ、らしてえつ……」

「じゅぼつ、じゅるうつ……れんぶつ……
のんれあげるうううつ……じゅぶつ、んぐつ、んぶつ、じゅぼつ」

「んつ、んつ、んむうううううううう～……！？」

「んんつ……んぐつ……んくつ……んつ……んつ……」

「んぶあつ……はあ……はあ……ああ……
すっごい勢いで、口の中に出されちゃったあ……♡」

「びっくりしちゃって、あんまり味わえないまま
全部飲んじゃったよう……もったいないよお……」

「そうだっ……尿道に残ってる精液……吸い上げちゃおうっと……♡」

「んあむつ、じゅつ、ちゅつ、んむつ、んじゅううううつ……。
んはああつ……うん……美味しい……♡」

「うん？ どうしたの？ おしつこ行きたくなっちゃった？
じゃあ……私が飲んであげる♡」

「んあむうつ……はひつ、おひっこ……らしていいよ……♡
おもいっひり……れんぶ……らひて♡」

「んぐつ……！ んんんんつ、んぐつ、ごくつ、ごく、んつ！
ふごい、れてるつ……んぶつ、んくつ、んつ……んつ、んくうつ……」

「んじゅつ……んぶあつ……！ はあああ……♡
きみのおしつこって、こんな味なんだあ……！」

「あったかくって、美味しかったよお……のど越しも、さいこお……♡
ごちそうさまでしたあ……♡」

「うんうん……おちんちんも満足そうにしてる♡
よかったです……♡ ばっちり性欲は満たされたんだね♡」

(テーブルの下から出てくる。椅子も終了)

「それじゃあ、きみのオムライスまた作ってくるね。
今度こそ、一緒にご飯たべよ♡」

「もちろん、口移しで食べさせあいっこだからね♡
えへへへへ……♡」

//トラック3

「んん……ふああ……朝……」

「ふふつ……♡
おはよ♡ 今日もきみは、世界一カッコいいね♡」

(ユーザーを抱き締める)

「はい、おはようのハグ♡
ぎゅうううつ……はう……起きたきみがいる生活、しあわせ……♡」

「今日はお休みだから、このままベッドでいちゃいちゃしようね♡
……まずは、おはようのご挨拶してあげる♡」

「んっ、ちゅっ……ちゅぴっ……れるっ……
ちゅぱっ……ちゅ、ちゅれろっ……」

「んふふつ……朝のペロペロだよお……れろっ、れるるつ……
ちゅふっ……れろっ、ちゅっ……ちゅふっ……」

「んんっ……朝一のきみのお耳……おいしいよっ……れるつ……。
寝起きでね、フェロモンが、んちゅっ、むわわわってしてるのっ……♡」

「はあ……もっともっと、舐めたくなっちゃう……
んれろっ、れるつ、はあつ……ちゅふっ、ちゅぱあつ……」

「れろおつっ……今日は朝から晩まで、いっぱい……

愛し合っちゃおつか……♡」

「そうそう……今日でもう一か月なんだよ。知ってた？
ん？ きみを監禁してから、一ヶ月目」

「監禁生活も悪くないでしょ？
私は最高だと思うけど、きみは？ どうかな……？」

「～～～っ！ そ、そつか えへへ……♡
キミにそう言ってもらえると、私……すごくうれしいよ……えへへ～♡」

「……え？ セックス？ うん♡ いいよ♡ しよ♡
エッチ、しよ♡ あ……今日はちょっとリクエストしてもいいかな？
座って抱っこするエッチするの♡」

「対面座位って言うんだよね。私、あれが一番好きなんだあ♡」

「だって、ぎゅううってしながら繋がれるし、
私が腰ふりふりしてきみのこと、気持ちよくしてあげられるでしょ♡」

(上半身を起こす)

「んっ……ほら、全部脱いで……お互い生まれたまんまの姿になるの♡
ぬぎ……ぬぎつ……ぬぎいつ……」

「ああんっ……朝勃ちおちんちん……すごおい……♡」

「ねえ……私の裸もちゃんと見てえ……
おっぱいも……お尻も、おまんこも、全部きみだけの身体なんだよ♡」

「ふふっ……釘付けになってるね……そう、それでいいんだよ……♡」

「ほら、見て……？ 私のおまんこも、準備万端で、じゅんじゅん疼いてきたあつ……
もう入れていいかな？ いいよね？」

「ねえねえ、今日はコンドームなしでシようよ♡
生のおちんちん、入れて……？」

「きみとの赤ちゃん、欲しいんだ……♡
私の、夢のひとつなの。
だから……ね？
子宮の奥に、精液注ぎ込んでほしいな……♡」

(跨がる)

「んあんっ……♡ 挿れて、くれるの？
私の事、孕ませてくれるのぉ……？」

「あ、ありがとう♡ きて……きみの勃起した、ビンビンおちんちん……
私のアツアツおまんこの、中に……つんつ、ううつ、んんつ……！」

「ふ、ああああっ……やっぱりこれえつ……すごく、おつきいい……！」

く、ううう……んんつ……！」

「あつ、あ、あふううつ……ああつ……！ 一気に、根本まで……入ったよお……
あああつ……生のおちんちんつ……きもちいいつ……」

「ああんつ……きみの熱が……伝わってくるつ……
おまんこいっぱいに、感じるつ……は、う、ああつ……」

「ねえ、キスしよっ……キスしながら、腰ふりふりしてあげるつ……♡」

「んつ……ちゅうつ、ちゅぱつ……んつ、あふつ……
ちゅれつ……んはあつ……はむつ……ちゅ、ちゅつ、んつ……んむあつ」

「はあつ……はあつ……頭、まっしろになっちゃうつ……
上の口も下のお口もつ……きみと繋がってつ……ああつ……幸せつ……」

「あんつ、んつ……このまま、時間が止まってほしいつ……
全身できみを感じたいいいつ……あ、あつあつ……」

「気持ちいい？ んつ、きみも、気持ちいいのっ？
あうつ、んつ、んああつ……嬉しいつ……嬉しいよおつ……♡」

「きみが感じてくれるとつ……私もつ……
おまんこきゅうきゅうってなって……感じちゃうつ……」

「んつ、んつ……私つ……この一ヶ月つ……あんつ……
毎日、んんつ……きみと一緒に、過ごしたらつ……」

「一日ごとにっ……好きな気持ちがどんどん深くなつてつ、あんつ……
どこまでも続く、深い海の底みたいにっ……あんつ♡」

「ねえつ……んつ、きみは、どうかなつ……？
私に監禁されてつ……あ、あつ、ほんとに、ほんとに、幸せにっ……？」

「ああんつ……うれしいつ……うふ、ふつ♡ あつ、あんつ……♡」

「これからも……全力で、んつ、守ってあげるつ……♡
一生、愛をそいであげるうつ……♡」

「ここはっ……二人だけの、深海のお城だよつ……♡
あ、あ、あふあああつ……♡」

「はあんつ……一緒に沈んでいこうねつ……もっともと深くつ……あ、あつ……
絶対に、んんつ、誰にも見つけられないところにっ……ふふつ♡」

「んつ……ちゅぷつ……あふつ……ちゅぴつ……
れろつ、んつ……ああつ……ちゅぱつ……」

「私の、唾液で……きみのお耳がふにやふにやにふやけちゃうくらい……
たくさん……ペろペろしてあげるうつ……♡」

「んつ……ちゅつ……はあつ……あつ……ちゅぷつ……んんうつ……

ふ、ああつ……あふつ……ちゅうつ……んつ」

「ああんつ……お耳ペロペロするたびにつ……
おちんちんが、おまんこの中でぴくんつ……ぴくんつ……ってするのおつ♡」

「はああつ……気持ちよくって喜んでるんだねえつ……♡
あああつ……もっと喜ばせてあげるうつ……♡」

「んつ、んつ……ねえつ、エッチなキスも、いっぱい、しょっ……♡」

「はむつ……ちゅうつ……んつ、れろつ……んつ、んふつ……
んちゅうつ……れろろつ……んううつ……えるつ……んちゅうつ」

「んむううつ……んつ、んつ……んちゅうつ……んはあつ……
舌つ……もっと絡ませてえつ……もつれて、二度と離れないくらいにつ……♡」

「んちゅうつ……んつ、れろつ……んふつ……んつ……んん～つ……
ちゅうつ……ちゅぱつ……ああむつ……れるるつ……んちゅうううつ……」

「んふあつ……ああつ……きみの舌つ……おいしすぎるよおおつ……♡
私だけしか知らないつ味いつ……んつ、んあつ……ちゅぱつ……」

「んんあつ……はあつ……ああつ……あんつ、さいっこお……♡
もう、我慢できないいつ……きみの全部がほしいつ……！」

「きみの精液、おまんこで受け止めたいのおおつ……♡
だからつ……腰、いっぱい動かしちゃうねつ♡」

「んつ……はあんつ……あ、ああんつ、ふ、ああつ！
あ、ああつ、ああつ……あふつ！ あああんつ……」

「ひあつ、あんつ……やあんつ……すっごい感じちゃうつ……♡
ああつ、あああつ……奥うつ……ぐりぐり当たるうううつ……♡」

「んつ、んつ……出ちゃいそうつ？
あんつ……いいよおつ……私も一緒にイクからあつ♡」

「はうつ……んああつ……赤ちゃんの種つ……
んつ、ふつ……ああつ……いっぱい注ぎ込んでえええつ♡」

「ああんつ、あ、ああつ……イクつ……イクつ……
イクよおおつ……んつ、んつ……あんつ……あああつ♡」

「ああああああああああああああつ……♡」

「あふつ……ううつ……んつ、んつ……んんん～……♡
中出しされながらつ……イっちゃってるううううつ……♡」

「あううつ……ふうつ……んつ……はああつ……ああつ……♡
奥の奥まで……あつつい精液つ……注がれてるの、わかるよおおつ……♡」

「はあ……はあ……はふうつ……きみとの子作りセックスう……

本能のまま……堪能しちゃったあ……えへへへ……♡」

「はあ……はあ……あふつ……夢中で、腰ふりふりして……
んつ……息が上がっちゃったあ……ちょっと休憩——」

「ああんっ！？ やつ、やつ、あんっ……！
ひいうつ……！ やつ、いきなり突き上げちゃつ……ひ、いつ、ううつ！」

「やつ、あつ、まだ、足りないおつ……？
ああんつ、やつ、それなら私がつ、休んでから動くよおおつ……！」

「だからつ、んつ、ふつ、あつ、止まってえつ！ まってえつ！
ああんつ……やあつ……あ、あ、あつ♡」

「ひうううつ！ んつ、ああああつ！
らめつ、らめえええつ……！ イつたばっかりでつ、そんなにつ……」

「あ、ああつ、はげしいいつ！ んつ、ふ、あああつ！
あひいつ、んつ、あ、あ、あつ！ うあああつ！」

「しゅ、しゅごつ……ああああつ！ きみって！
そんな激しくパンパンできちゃうのおつ！？ あつ、ふ、ああつ！」

「ひやあつ、ああふつ、ふつ、ひいいいんつ！
そんなつ、たくましいピストンされたらつ、ひつ、いいううんんつ！」

「ああつ、ああつ……わらしつ……んつ、ふつ、あああつ……！
おかしくなつちやうつ……おかひくつ……ひうううつ！」

「あんつ、ああつ、はうつ、んつ、んんつ！
きみのおちんちんつ、あ、あつ、ひいつ！ きもちいいいつ……！」

「はふうううつ、んつ、んつ、ああああつ……！
し、しんじゅううううつ！ あ、あ、あああつ！」

「はうううつ、あああつ、はふつ、ああつ、やああんつ！
あああんつ！ すごつ、すごいいいつ……！」

「やあああんつ！ こんなエッチされたらつ、あんつ、ふあつ、あああつ！
頭の中ああつ、きみのおちんちんでいっぱいになつちやうよおおつ！」

「ひつ、うつ、んんつ……あああつ、あううえつ……！
イキそうつ、またいつちやうよおおつ！ あ、あ、あふあつ！」

「きみもイクんだよねつ……？ ふええつ、まだなのつ！？」

(しがみつく)

「やつ、やだあつ……！ 一人でイクの、やだよおつ……！」

「んつ、んつ、とめれつ！ パンパンとめれえつ……！
らめえええつ！ イつちやうから、らめらのおおつ……！」

「あ、あ、あ、あつ……！ ああつ、やあつ……！
イクつ……イクつ！ イクううつ……！」

「んんううううううううううう～～……！」

「はふつ……んつ……はあ……はあ……ううう……」

「もおおつ……んんつ……やめてって……言ったのに……
一人でイクの……さみしかったよお……！」

「んつ……はううつ……あんつ……！
やあつ……突き上げつ……またあつ……！？ ふ、ううつ、ああつ！」

「はあつ……あうつ……ひいいいつ……！
敏感おまんこつ……はつ、ああつ、へんになるううつ……！」

「あんつ、ひつ……つつ……んつ……くうんつ……ああつ！
しゅごつ……♡ ああ、あ、あつ……ひつ、いいいつ、うううんつ♡」

「ぱんぱんしゅごつ♡ はつ、あ、あ、うううんつ♡
あうううつ、イキそう？ イキそうなの？ あんつ！」

「あうううつ♡ あんつ、んつ、ふつ、あつつ！
わたしもつ、連続イキしゆるつ……今度こそ一緒にイクのつ♡」

「さつきつ、さみしくさせた分つ……
いっぱい精液、びゅうびゅうしなきやつ、らめらよつ♡」

「はつ、あ、あ、あつ、ああああ～つ♡
きて、きてきてきてつ……！ 中出し絶頂、きてえええつ♡」

「あんつ、ふつ、あああつ……やああつ！
わらしつ、んつ、ああつ……お潮、でちゃいそおおつ♡」

「はうつ、ううつ……んんつ、子宮口つ、うつ、んんつ！
ガンガン突かれてつ、んつ、ああつ、いつちゃうよおおつ！」

「あ、あ、あ、あつ……イクつ……！
極太おちんちんでつ、イクううう……！」

「ふつああああああああああああああああつ……♡」

「中出しいい……されながら……ああああつ……あひつ……
潮吹きつ……びゅーびゅーしちやつたあああ……♡」

「はあ……はあ……んんつ……はふつ……はああ……」

「はうう……おもらししちやつたみたいに……
シーツぐつしょりだよお……♡ んんつ……♡」

「きみの激しいピストンセックス……
きもち……よくてっ……んんっ……やみつきになりそおおおつ……♡」

(抱きつく)

「はあ……はあああ……んっ……ぎゅううつ……♡」

「んうつ……はあっ……はううつ……お互い……
汗といろんなお汁で……身体中ぐっしょりだね……♡」

「あああ……部屋中……熱気とエッチな匂いでむわむわ……♡
はあ……ああ……二人だけの幸せ空間……♡」

「ねえ……キスしよっ……♡」

「んう……ちゅうつ……ちゅつ、ちゅぱつ……
ちゅるうつ……はむつ……ちゅつ……れろおつ……」

「ああっ……きみとのキス……最高う……♡
ちゅつ、ちゅぱつ……えるるつ……んじゅつ……んちゅううつ……ちゅぱつ」

「んんっ……はあ……はあ……駄目だあ……
まだまだきみのことが欲しい……私のことも、いっぱいあげたい……」

「ねえ、今日は一日中、エッチしよ……♡
もちろん、ぜんぶ中出しじゃね……♡」

「日が暮れるまで……ううん、日が暮れてからも……
ずっと中出し……私のおまんこがきみの精液でたぷたぷになるくらい……」

「そうしたら、赤ちゃん、出来るもんね、絶対……♡
ああん……もう、子宮がうずいてとまんないよお……♡」

「愛してるよ……永遠に……きみだけを、愛してるからね……♡」